

授業科目名	法哲学Ⅱ	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	哲学の異なりによる、法の捉え方の異なり	担当者	柳沢 謙次			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>法をどのように捉えるか（＝法とはどのようなものだと考えるか）は、論者によって様々です。さまざまな人が、自分の思想・哲学から、法とは何かを論じています。本講では、どのような哲学では、どのように法が捉えられるか、を調べていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「法哲学Ⅰ」に記したところに準じます。</p>					
履修条件	(特になし)。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>「法哲学Ⅰ」と同じスタイルで進めます。そちらを参照してください。</p> <p>【参考書】</p> <p>同上</p>					
授業回数	内容					
1	「自然法」という考え方について ①古代ギリシアの諸思想家が考えた法					
2	" ②God が示したものと考えた法					
3	" ③人間の本性に基づくものとしての法					
4	" ④人間の理性に基づくものとしての法					
5	純粹理性批判（＝認識能力への反省）を経ての、法の探求					
6	法の(科)学の成立への問いかけの時代 ①価値哲学として					
7	" ②規範哲学として					
8	「実存思想・実存哲学」から考えられる法					
9	「生の哲学」から観られた法					
10	「新しい存在論」から観られた法					
11	「科学主義」から法を観ると？					
12	「構造主義」から法を観ると？					
13	ポスト・モダンの哲学から法を観ると？					
14	法を観る目の現代の諸相					
15	補論					
評価方法	「法哲学Ⅰ」に記したところに準じます。					
評価基準	上記授業内容について、此れを良く理解し、適切に表現出来た者には「A」を与える。単元の内容に付いての理解や表現に不適切な点がある者は其の程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容に付いての理解自体が不十分な者は其の程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	「法哲学Ⅰ」に記したところに準じます。					